



AI / IoT / ビッグデータを活用した 「ヨコハマ近未来都市プロジェクト」

事業目的

- 2019 年度の政府重点施策としても SDGs 環境面の取り組みとして、IoT・AI 等のデジタル技術を活用することにより、脱炭素社会の構築といった課題の解決に向け、新たなビジネスの創成・普及を図ると謳われています。
- 同様に社会面においてはスマートシティの推進として、ICT 等の新技術・官民データを活用した取組を加速するとともに、これらの先進的技術をまちづくりに取り入れ、超高齢社会に備え安心して暮らせる必要性が示されています。
- このような背景を受け、本事業では2テーマに着目し「環境（脱炭素化）」「社会（安心して暮らせる超高齢社会）」の実現に向け取り組みます。
- 本取組により、横浜市が同じ課題に直面する国内外のモデル都市となるべく目指していきます。

事業計画

【内容】

- エアコンにコンセント IoT タップを接続し、スマートメータ等のエネルギービッグデータと気象予報オープンデータを融合しクラウド上で AI 分析を行い、遠隔運転指令により快適かつ消費電力の最適化を実現します。
- 本事業により多角的な総合生活支援が可能となり、エアコン効果的運転（熱中症予防、省エネ、快適生活、低炭素）、ゆるやかな見守り（高齢者孤立倒れ判定、孤立死）等が可能になります。
- 同様に街区やまち単位では、バーチャルパワープラント（VPP）をエアコンで行う事も出来るため、デマンドレスポンス（DR）やピークシフト含めて、快適生活を継続する中で行わせる事が可能です。
- 国内では気象データ連携の同様事業は存在しないため、UR 都市機構との実証型共同研究（平成 29 年～ 31 年）における効果（省エネ:15%以上、脱炭素：ピークシフト 50%程度、快適時間維持：2 倍程度）の実用化と普及に向け取り組みます。

【体制】

- 本事業はヨコハマ SDGs デザインセンター会員（環境エネルギー総合研究所）と共同事業として取り組みます。
- 弊社がプロジェクト全体の統括、関係各所との調整を行います。
- 首都圏における高齢者系施設、住戸施設（エリア）への実装を予定しています。
- 地方への普及については、私ども地域医療連携と地域包括ケア（IIJ 電子 @ 連絡帳サービス）のようなエリア全体でご利用いただいている既存顧客地域への推進を促進予定です。

問合せ先

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ 代表取締役社長 岩澤利典

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
TEL : 080-4365-8725（担当：営業本部第三営業部 井上 和久）
E-mail : kazuhisa.inoue@iijglobal.co.jp